

松本市立病院看護部の目指す看護

行うべき看護	こんな看護をします	陥りやすい看護
<p>患者さんが必要とする最善の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援 ・組織内外の人との調整力 (コーディネーター役割) ・地域の資源を活用し退院後の生活も視野に入れた看護ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の立場に立って生活空間を工夫できる ・実施している行為が本当に患者のための行為かを考えることができる ・「心配なんですね」とまず受け止める。患者がわかる言葉で説明、情報提供をして安心を提供できる ・患者が自分の気持ちを表出できる関わりが持てる。 ・その人の選択を尊重できる 	<p>傾聴しない看護 説明がない看護 個別性がない看護</p>
<p>看護職として成長し学び続ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種勉強会 	<p>関連学会や学習会への積極的参加 自己課題を明確にできる 自己のキャリア形成を考えることができる。(自分の看護職としての理想の姿に向かってあきらめずに成長し続けられる)</p>	<p>知識のアップデートが無い 不明なことをそのままにしてしまう</p>
<p>信頼できる、心あたたまる看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇・患者対応 ・コミュニケーション ・倫理的感性 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の情報を活かした看護 ・再入院の患者に対して、患者が自分のことを覚えてくれてうれしいと感じられる看護 ・「自分や、自分の家族なら〇〇してほしい」と患者の立場になり考え表現することができる ・患者、家族に寄り添った言葉がけができる ・この病院で看護してもらってよかったと患者が感じられる看護 ※待ち時間が予定より長くなった場合でも現状説明など、一声かけることができる ※患者の状態アセスメントができ、基本的欲求(食事、排泄、睡眠)等、患者の心情に添った看護ができる ※転倒、点滴の自己抜去があっても対策を考え抑制をしない看護を考えることができる 	<p>個別性がない看護 業務優先の看護 看護師主体の看護</p>

※当院の看護理念・看護方針から、より実践の現象に近い行動と判断基準を表現したもの